

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第8回 「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成20年8月6日(火) 18:00より、第8回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」としてベースマップを作成し、グループ会議で目標に入れたい言葉を発表しました。15名の委員が出席しました。

H20年度の取り組み(予定)

「美しい川宣言」宣言書(案)をまとめるにあたり、平成20年度に取り組みたいことを事務局より説明した。

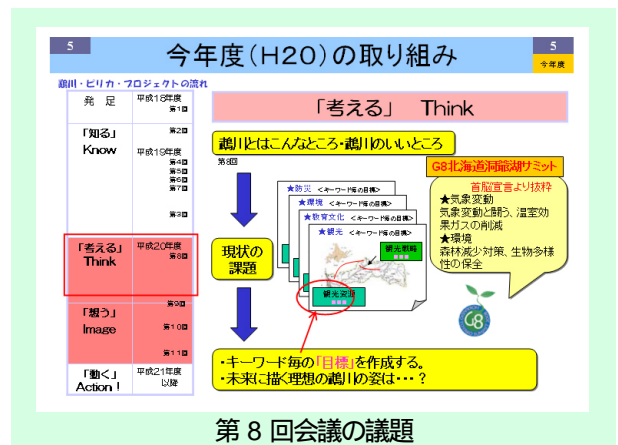
「防災」、「環境」、「教育文化・観光」の3つのグループに分かれ、ベースマップに情報を補足し、目標に入れたい言葉を考えました。

グループ会議で提出された意見は、下記のようなものでした。

グループ会議(意見抜粋)

< 防災グループ >

- * お互いの情報の共有。それによって避難や2次災害などいろいろな災害に対応できる。
- * 国の機関として集められるだけの情報をできるだけ細かく集計したものを町に送ってくれるというのが必要だ。
- * 雨量の情報はインターネットで誰でもリアルタイムに見ることができるようになっている。
- * インターネットにつないでいないと雨量の情報を得ることができない。
- * 要支援者はきちっと把握しておかなければならない。
- * むかわ町では高齢者や独居老人の位置を地図情報として把握できるようにGISを構築している最中である。
- * 地域で自主防災組織ができて動いてくればいいが、高齢で動ける人が少ないので難しい部分がある。
- * 鵜川のハザードマップも必要だが、地域のハザードマップが欲しい。
- * 人命最優先という共通認識を関係機関でつくり、判断基準を共有化すべき。
- * 災害は防げないので自分の身は自分で守ることが重要。そのためには地域が一丸となって対策を行う必要がある。



グループ会議（意見抜粋）

< 環境グループ >

- * ただ放っておくのではなく、いかに自分たちがそれに対して手を加えて良くしていかなければならないかということをお話ししたい。
- * （森と）川と海が加わってすべては一つ。それをばらばらに、ここだけを守りましょうといっても無理ではないかということに尽きると思う。
- * （むかわ町は）シシャモ伝説の生まれたところ。シシャモ伝説は私たちの誇りと思っている。
- * シシャモ、花、鳥が幸せなら私も幸せというのがあって、それを追求したい。
- * 川に感謝する気持ちがあれば、川を汚さないできれいにしていける。

< 教育文化・観光グループ >

- * 体験でお客さんをお呼び集めるのもひとつの観光。鶴川はいい資源。
- * 構想段階ではあるが、廃校を使って、そこをベースにいろいろな活動をしてはという議論もある。
- * アイヌ民族は先住民族として認められた。鶴川にもアイヌ民族の人がたくさんいるので、誇りをもてるようにしたい。
- * 自然というのは予測がつかないから、いろんな怖い面も持っているが、川に入ると怖いところも楽しいところも全部わかります。

「防災」、「環境」、「教育文化・観光」の3つのグループに分かれて考えた目標に入れたい言葉について、どのような思い込めて考えたか全員の前で発表しました。

グループ会議で提出された意見は、下記のようなものでした。



グループ発表の様子

グループ発表（抜粋）

< 防災グループ >

- * 情報を正しく住民に伝える方法を考えてほしい。
- * 命が最優先という共通意識を持った対策が必要である。
- * 防災対策は行政が中心となった体制づくりが強く望まれる。

< 環境グループ >

- * 人もあらゆる生き物も育つ川。
- * バランスよく手をかけないと自然も生きていけない。生態系を変えるものについては拒否して、生態系全体を守っていききたい。
- * 森、田園、海、すべてが鶴川の流れの中で美しい景観を呈しており、そういった景観を造りたい。
- * 人は常に川の恩恵を受けており、環境を大事にすることは自分を大事にすることである。

< 教育文化・観光グループ >

- * 観光資源は豊かな自然と清流、アイヌ民族の歴史や文化。人材も観光資源として考えてもいいのではないかな。
- * アイヌ文化は伝承。歴史、文化に触れられるような場所や環境が必要。
- * 観光戦略、教育はともに体験。